



第15号

スポーツ北秋田

一般財団法人 北秋田市スポーツ協会

発行：一般財団法人 北秋田市スポーツ協会 北秋田市鷹巣字東中岱11番地 TEL 0186-84-8790 (FAX兼用)
ホームページ <http://www.kumagera.ne.jp/kasa/> メール:k-taikyo@kumagera.ne.jp 印刷：(有)米内沢中央印刷



令和4年度 北秋田市スポーツ賞表彰式

バレーボールの町を支えた「鷹巣体育館」



秋田県バレーボール協会

会長 田村正男

昭和36年の「秋田まごころ国体」では、成田元裕先生などのご尽力により鷹巣町がバレーボール競技会場となった。鷹巣中学校にオープンコート6面を新設し、天皇・皇后両陛下が観戦された。試合は9人制で行われ大館鳳鳴高校が3位の成績を収める。翌年から高校のバレーボールは6人制に移行する。国体を機に、6人制9人制を問わずバレーボールの試合は鷹巣町での開催が定着し、自他ともに「バレーボールの町・鷹巣」と言われるようになった。

昭和48年に鷹巣体育館が完成してからは、男女の日本リーグや実業団リーグの試合が毎年開催されるようになった。試合前の開始式で、出川町長さんの「まじもって」で始まる挨拶が選手の間で話題となり、「鷹巣会場へ行ったら、町長さんの挨拶が面白いよ」と、女子チームの間で評判となった。全国トップレベルの大会運営に向けて組織も強化が必要となり、大館の丸谷万雄さんなどが中心となり、「大館北秋田バレーボール連盟」が結成された。昭和49年には、鷹巣中学校男子バレーボール部(武藤優悦監督)が全国大会で3位の成績を収め、「バレーボールの町」に花を添え不動のものとした。

昭和57年の日本リーグ鷹巣大会では、日立ユニチカ戦が組まれたが、この年の全日本チームはこの2チームの選手で構成されていた。昭和59年には、秋田インターハイの女子会場に、平成7年には全日本女子チーム(吉田国昭監督)、平成9年には全日本男子チーム(寺廻太監督)が、鷹巣体育館で合宿を行っている。平成12年頃までは全日本レベルの大会が毎年開催されてきた。平成19年の「秋田わか杉国体」で成年女子9人制の会場となり、「秋田」が優勝。この後は全国大会の開催は無い。「観客の目が肥えてレベルの高い試合でなければ集客が難しい」と言われるくらい数多くのハイレベルの試合が行われてきた鷹巣体育館である。

これからは生涯スポーツの場として、健康のために8人制バレーボールなどで活用しているオールドファンを温かく見守ってもらいたい。

北秋田市スポーツ少年団の紹介 (育成事業助成金交付単位団)

楽しさは成長の原動力

北秋田市ジュニア陸上クラブ



指導部長

野呂 康一

北秋田市ジュニア陸上クラブは、平成23年7月に発足し、翌年の24年からスポーツ少年団に加入し現在に至っています。

今年度は、北秋田市内の小学校3年生から6年生までの39名。練習場所は陸上競技場だけでなく、鷹巣中央公園や北欧の杜公園などの大自然の中だからこそ、さまざまな地形を利用しながら月2回活動しています。

当クラブは、かけっこの楽しさを多くの子供たちに体感していただき、健全な精神の成長を図ることを目的としており、選手強化・

勝敗のみを考えての指導ではなく、仲間意識と人を思いやる心、そして、何事にも夢中になって取り組むことをクラブのコンセプトとしています。

遊び感覚での楽しさが自然に走ることにつながるのです。私自身も特に陸上競技を誰かに教わったわけではなく、振り返れば小学校時代に夢中になった缶蹴り、鬼ごっこ、縄跳び、逆立ちなどの遊びが自然に走ることに繋がったと思っています。からだを動かす楽しさは、健康なからだを作り、他者との関わりやルールへの学びは、社会性を育み、達成の喜びは努力の大切さを教えてくれます。

外遊びの少ない今だからこそ、クラブを通して運動遊びを楽しんでほしいです。未来を担う子ども

たちの健全な育成に、スポーツは大きく貢献できると信じています。今後もスタッフ一同、子どもたちと一緒に楽しんでいきたいと思っています。

陸上を通して学んだこと



団員(綴子小学校6年)

小野 心寛

私は、陸上を通して学んだことが二つあります。

一つ目は、自分の弱い気持ちに負けないことです。私は陸上を始めた頃、練習に対して甘さがあったので、大会でも悔いの残る結果を出してしまいました。このままではいけないと思い「絶対に県大会に出場する」と強く心に決めて取り組み、目標を達成することができました。

二つ目は、コーチやチームの仲間の存在の大切さです。仲間と応援し合ったり、競い合って走った

りすることで、思った以上の力を発揮することが出来ます。これからも一緒に頑張る仲間を大切に、お互いを高め合える関係でいたいと思います。

私は、中学校でも今まで学んだことを大事にしながら、陸上からいろいろなことを学んでいきたいと思っています。



ジュニア陸上クラブの集合写真

清鷹小XC スポーツ少年団の活動



代表 佐藤 武

当スポーツ少年団は、6年生1名、5年生1名の清鷹小学校の児童で構成されています。子どもたちが健康的な生活習慣を育むために、スポーツを通じて楽しみながら成長できる機会を提供したいと考えています。

活動は主に冬期間、12月から3月までになります。夏季トレーニングとして、ローラースキーの練習も取り入れています。

冬期間は北秋田ジュニアクロカンスキークラブに所属し、北秋田市、大館市の児童と合同で大館能代空港クロスカントリースキー場で練習しています。

シーズン初めは主に阿仁スキー場のクロカンコースで高地トレーニング、時間走を行い、持久力と心肺機能を向上させるための練習をしています。大会が近づくころには、インターバル、スプリントレース等のスピードトレーニング

グを行い、大会に向けての士気を高めていきます。

シーズン中は各種大会に参加しており、昨年度は、秋田県冬季体育大会準優勝、田沢湖クロスカントリースキー大会優勝の成績を残しており、秋田県代表として全国大会にも出場しています。

北秋田市は古くからクロスカントリースキーが盛んな地域であり、数多くのトップアスリート輩出してきた歴史があります。昨今では児童、競技人口が減少しており、とても残念に思います。

クロスカントリースキーは雪上のフルマラソンとも言われ、とても過酷なスポーツですが、子供達には、ここで培ってきた精神力、忍耐力を今後の生活にも生かして、成長して行ってもらえたらと思っています。



秋田県田沢湖クロスカントリースキー大会フリーリレー(合同チーム)優勝



全日本小学生選抜スキー大会「長野県木島平スキー場」佐藤奎斗(清鷹小学校6年)

○ ☆ ◇ ☆ ◇ ☆ ○
クロスカントリースキーで学んだこと



佐藤 奎斗

団員(清鷹小学校6年)

僕がクロカンで学んだことは、感謝の気持ちを忘れないことです。スキー用具を買ってもらい、練習場所まで連れて行ってくれる両親、プライベートの時間をさいて指導してくれるコーチ陣、毎日コース

整備をしてくれる人、スキーにワックスを塗ってくれるワックスマン。多くの人の協力のおかげで、僕は走ることができると感じました。

姉の影響で始めたクロカンは、今年で9年目になります。中学校でもクロカンを続けるかまだ決めていませんが、今シーズンで小学校最後の年になります。今まで自分に関わってくれた多くの人たちへの感謝の気持ちを忘れずに、目標である団体優勝と全国大会入賞を達成してみせます。



田沢湖クロスカントリースキー大会 佐藤翔英(清鷹小学校5年)

第18回北秋田市スポーツレクリエーション大会
(大会事業助成金交付単位協会)

北秋田テニスクラブ



会長 佐藤 茂

秋の恒例となった北秋田市スポーツレクリエーション大会テニス競技を、10月8日に空港周辺ふれあい緑地コートで開催しました。

毎年参加者集めに苦慮しておりますが、今年も4名の参加しかなく、ペアを替えながらダブルスを数試合行い、勝率で順位を決めました。普段からナイター練習で手の内を知り尽くした相手ということもあり、どの試合も白熱した熱戦が繰り広げられました。また、選手の家族や孫も応援に駆けつけるなど、和気あいあいとした雰囲気大会となりました。

来年度以降もスポーツレクリエ



空港周辺ふれあい緑地コートでの大会風景①



空港周辺ふれあい緑地コートでの大会風景②



空港周辺ふれあい緑地コートでの大会風景③

ーション大会は継続しますが、参加者よりもより競技人口の拡大が課題となっています。

北秋田市では、ソフトテニスに比べマイナーな競技ですが、近隣の市町村では毎月のようにローカル大会が開催されるなど、練習の成果を発揮する機会は数多くあります。

テニスはラケット一本あれば一人でも壁打ちなどで練習することもできますし、二人揃えば打ち合いやシングルの試合もできます。

当クラブは五・六十歳代が中心となって活動していますが、これから始めようと思っっている若い世代の方々や、昔やったことのある同年代の方々も、健康づくりのため一緒に汗をかいてみませんか。

テニスクラブでは、冬期間も体育館で練習していますので、老若

男女問わず、興味のある方は是非お声をかけてください。(ラケットは貸与します。)

北秋田市ターゲット・パードゴルフ協会

健康目的として



会長 石川 一郎

10月2日に第18回北秋田市スポーツレクリエーション大会を開催しました。ターゲット・パードゴルフは、あまりなじみがないかと思いますが、ボールはゴルフボール（球部）のようなものにバドミントンの羽根に似たボールを打ち、傘を逆さに立てた形のネットに入れます。打つクラブは、ウエッジクラブ一本でコースを回ります。ホール数は9ホールまたは18ホールで、パー72を目標に回ります。現在会員数男女14名で、毎週月・木の午後一時から米内沢農村広場で練習をしています。8月中旬以降は、今年の猛暑のため、午前9時からになりました。少しは涼しく感じたので良かったと思います。会員全員が後期高齢者になりましたが、月に一度の近隣地区と交流会をして友好を深めています。心配なことは会員が増えず困って

ます。興味のある人は一度見に来てください。



ターゲット・パードゴルフ大会風景

スポーツ講演会・陸上教室を開催

講師 世界陸上競技選手権大会男子50km競歩銅メダリスト 小林 快氏

一般財団法人北秋田市スポーツ協会主催によるスポーツ講演会並びに陸上教室が11月4日、2017世界陸上競技選手権大会男子50km競歩銅メダリスト小林快氏をお招きして開催されました。

陸上教室では、基礎練習の仕方を、講演会では「夢」と題して講演いただきました。



北秋田市期待の

ジュニアアスリート紹介①

【相撲競技】

中学校最後の全国大会



鷹巣中学校相撲部3年

岸野 公祐

今回の全国大会では、鷹中3人で今までの力を出せるように努力してきました。個人予選は3戦全勝でしたが、その中の二番は納得のいかない内容で正直自分の相撲が取れていなかったし、会場の雰囲気になじめなかったと思います。決勝トーナメントに出場したものの、一気にもっていかれて1回戦で敗退してしまっていたので、もっと力を付けたいと思いました。

団体戦では、3年生3人の力を発揮するように、チームワークをととても大事にしました。予選9試合を戦って3勝し、8点でした。僕が一敗してしまつたので、決勝トーナメントでしっかり役に立とうと思いましたが、準々決勝の石川県は強いチームでしたが、長岐が

見事に勝ち、準決勝に進むことができました。ここから最大限のチーム力を出して優勝をねらい、決勝に進むことができたのですが、自分たちの相撲が取れず、結果は準優勝でした。

コーチや多くの人たちのおかげでここまで来ることができ、中学校最後の最高の全国大会でした。

全国大会を通して



鷹巣中学校相撲部3年

長岐 征馬

僕は、この一年間相撲を通してたくさん成長することができました。

昨年8月、2年生の僕は、初めて全中に臨みました。体の大きさ、フィジカルの強さに大きな差があり、全国レベルの高さを身にしみて感じました。

シーズンが終わり、団体メンバードで目標を「東日本大会・全県大会・東北大会優勝、全国大会3位

以上の入賞」に決めて厳しい練習を乗り越え、全国の強豪と勝負できる体づくりも頑張りました。その他、出稽古先で多くの人から技術を教えたいただき、全国で通用するような技やさばき方を身に付けることができました。自分に負けず、チーム一丸となって厳しい場面を乗り越えてきたことで、全国大会では自信をもって戦うことができました。さらに、準優勝という大きな成果につながったことが、何よりも嬉しいことです。

三年間最後の戦い



鷹巣中学校相撲部3年

和田 聖翔

三年間最後の全国大会で、自分は活躍できるか不安でした。他の二人より遅く相撲を始め、1・2年生を通して勝利が1回、3年生になってから勝つことができました。結果は団体準優勝でした。このようなよい成績を収めることができたのは、今までの基礎的な練習の徹底、申し合い、ぶつかり稽古、冬期間のトレーニングはもちろんのこと、青森や岩手、福島、埼玉など

いろいろな所に行つて自分がパワーアップしたからだと思えます。さらに、一緒に稽古を続けてきた二人の仲間、監督、コーチや先輩そして家族の応援が、この結果に一番大きくつながったと思います。自分の目標であった「チームを全国に連れて行く」ということができたのでよかつたけれど、決勝で負けてしまい、悔しい気持ちがあるので、高校での全国優勝を目指して、これからの練習で強くなれるように頑張りたいです。



鷹中相撲部全国大会 準優勝

北秋田市ニユースポーツの紹介

●ネオホッケー競技

たかのす校とネオホッケー

比内支援学校たかのす校



教諭 吉田 翔一

ネオホッケーとは、スウェーデン発祥の競技で、1978年に日本に本格的に導入されたニユースポーツです。「ユニホック」「ユニバーサルホッケー」として活動をしていましたが、2012年からは、名称を「ネオホッケー」として新たにスタートしました。

実際の試合では、長方形のコートの中で各チーム6人が競技を行います。プレー中はスティックを使って、自由にボールを操作することができですが、スティックのボールを打つ部分が膝より上に上げることや身体接触、転倒等の危険な行為はすべてファールになります。プラスチック製の穴の開いたボールをゴールに入れた点数を

競い合う競技です。

たかのす校では、部員数の不足から一時ネオホッケー部がなくなりましたが、昨年度から復活し、冬季はスキー部、それ以外の時期はネオホッケー部として、中・高等部生が木曜日に学校の体育館で活動しています。

今年度は、中学生4名、高等部生4名が所属しています。1回の練習時間が2時間弱と限られた時間の中で、パス練習やシュート練習、試合形式での練習を行っています。年に1度行われる特別支援学校総合体育大会での上位入賞を目標に1年間練習に取り組ましました。

そして、迎えた今年度の特別支援学校総合体育大会は、9月15日に雄和体育館で行われました。1回戦、4対0で勝利、続いて行われた準決勝では、惜しくも1対2で敗れてしまいました。3位決定戦は4対1で勝利し、今年度も昨

年度に続き、3位入賞することができました。

生徒たちは昨年とは違い「3位は悔しい。来年こそは優勝したい。」と意気込んでいました。優勝杯を手にすることができるよう日々の練習に取り組んでいきます。



令和5年度秋田県特別支援学校総合大会での試合①



令和5年度秋田県特別支援学校総合大会出場メンバー



令和5年度秋田県特別支援学校総合大会での試合②

写真で見る活動状況



スポーツレクリエーション大会開会式及び大会風景「テニス」(10/8)



第2回ウォーキング教室 風景 (10/28)



ふるさとランでの北秋田市選手 (10/1)

編集後記

本来部活動は、生徒のニーズに応じたスポーツを選択し、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢の生徒、教師等との交流の中で、社会性を身に付けるなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義は大きい。

しかし、少子化が進展する中、中学校の運動部活動が、従前の運営体制では維持が難しくなってきたり、学校によっては、存続の危機にある。北秋田市はさらに深刻で、鷹巣中学校以外は選択肢が極端に少なく、他校との合同チーム編成でようやく凌いでいるのが現状で、本来論から大きくかけ離れている。

この現状を少しでも解決していこうとするのが「中学校部活動の地域連携・移行」である。スポーツ活動を学校単位から地域単位へと広げ、地域のクラブとして活動する形態である。北秋田市全域から生徒が一つに集まり活動するということも可能になる。将来的には、すべての部活動を

地域に移行させるのが国の方針でもある。

私は、北秋田市教委から地域連携・移行に関するコーディネートなどを委嘱され、推進計画などを現在作成中であり、来年度には公表予定である。

連携・移行のためには、本協会との関わりが深い「単位協会(競技団体)」の役割も重要になってくると考えている。連携・移行問題は今後、地域全体・スポーツ関係者全員で考えていかなければならない大事なことだと思う。

遠藤 元博 記

「スポーツ北秋田」編集委員

委員長 武藤 優悦

- 委員 成田 昭夫 佐藤 隆男
- 三浦 武 金澤 聡志
- 藤原 甚英 佐藤 要
- 工藤 清一 遠藤 元博
- 宮腰 和彦